

定着率向上むけ事例紹介

人材確保 女性採用や健康経営

協ト静

【静岡】静岡県トラック

協会（大須賀正孝会長）は6日、採用力の強化や定着率の向上に向けた人材確保対策セミナーを開催した。4事業者の経営者を取り組みを紹介したほか、パネルディスカッションも行われた。

事例紹介では、マイシン（愛知県豊橋市）の辻直樹社長が、女性ドライバーの積極的な採用により、ドライバー不足の解消と労働時間短縮を實行しつつ、売り上げ拡大も実現させた取り組みを紹介。早朝から稼働できない女性ドライバー

は、午後便の担当とするなど、状況に合わせた仕事をつくるといった発想の重要性を説いた。

カワキタエクスプレス（三重県亀山市）の川北辰実社長は、30歳未満が6割という自社ドライバーの年齢構成を紹介。高校新卒者や20代を採用ターゲットとして、月給制への転換や労

採用と定着をテーマにパネルディスカッション



働環境の向上に取り組んできた経緯を説明した。松葉倉庫運輸（静岡県藤枝市）の松葉秀介社長は、人材確保への一環として企業主導型保育園を設立した

プロセスを紹介。地域社会やトラック運送業界が抱える課題、自社の思いや夢など様々な要素を重ねながら、本当にやりたいこととして絞り込んでいった経過を述べた。

アトランス（浜松市東区）の渡辺次彦社長は、社員の高齢化と業績の低下から、健康経営を推進した過程を説明。高齢ドライバーの活用と生涯現役の職場づくりに向けた思いを語った。社会保険労務士の鈴木美江氏をコーディネーターとして行われたパネルディスカッションでは、人材の採用や定着対策について議論した。（奥出和彦）